

授業デザイン（3訂版）

教科	国語	科目	古典B	授業者	今井 利之
実施日時	令和1年11月11日（月）4時限			対象クラス	2年D組（35人）

【研究授業の目的・ねらい】

①	教育目標の実現や資質・能力の育成に効果的な授業について研修する。
②	新教育課程で重視される教科横断的指導の内容・方法について意見交流する。
③	教室環境の整備に伴い新教材・教具を活用した授業について研修する。
④	AL型授業の展開（インプットとアウトプットのバランス調整）について研修する。
⑤	「深い学び」に繋がる授業の工夫（反転授業、問いの構造化、逆向き設計、ルーブリック）を研究する。

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面（説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識）

単元名	物語『源氏物語』『若紫との出会い』
⑥ 単元目標	・物語を読み味わい、中古の人が抱いた恋情を知る。 ・和歌の創作技法である「本歌取り」を意識して本文の主たる心情の理解を深める。（応用）
⑦本質的 な問い	「物語文学の享受方法」（パースペクティブ） Q① 物語の享受において、和歌はどのような役割をもつか。 Q② 文学史の中で、王朝貴族はどのように物語文学を進化させて創造したか。 Q③ 私たち現代人は、古典文学とどのように関わることができるか。
⑧理解 動機/鑑	A① 心情や情景をふくらませることによる豊かな解釈。 先行文学の思想・価値観や創作技法を活用して、物語世界の奥行きを広げる。 A② 先行する文学の成果を取り入れつつ、作者独自の価値観に基づいて新しい文学を構築し、同時代の享受者とともに新しい文化を創造する。例：「本歌取り」「引き歌」「連歌」「歌枕」等の創作技法による文学史上の重層的発展……座の芸術、不易流行「文化的コンテクスト」 誤解：『源氏物語』は、紫式部という天才が、独自に複雑な心情と内容を個性的な表現方法を駆使して創作した奇跡である。 A③ 古典との対話による新しい価値や表現方法の創造
⑨知識	⑨ 本歌から本歌取りへの創作技法、慣用的比喻（袖濡らす）、「藤」から喚起される物憂さ
⑩技術	⑩ 本歌取りの手法で創作した「和歌」を読み味わった上で、その手法を応用して和歌を創作する。

【第二段階 評価のための証拠】

評価のための証拠	パフォーマンス課題、小テスト、振り返りシート、作品、生徒の応答、生徒の質問、観察
ルーブリック	有 ・ 無

【第三段階 学習計画】 ※ W（目標）H（関心）E（経験）R（振り返り）E（評価）T（調整）O（組織化）

1 各授業のテーマ（主となる学習活動の内容や問い等）

第1時の内容	『源氏物語』の文学史的概要と「若紫との出会い」の第一段落の内容と表現を学ぶ。
第2～4時の内容	第二～四段落の読解。
第5時の内容（本時）	第四段落までの内容を踏まえて授業者の創作した和歌を復元し、現代語訳を試みる。
第6時の内容	生徒の日常について、前時で学んだ和歌の下の句を連歌的手法により詠んで創作する。

2 予習 (有・無)

内容	・既習の本文の音読と各自の授業ノートを読んで復習する。
分量	・教科書 p100～101 の6行目

3 問いの構造 ※ Q (発問)、I (指示)、A (答え)、W (作業)

問いの種類	指導者の働きかけ	学習者の活動
テーマとしての問い	Q なぜ『源氏物語』のような高度に複雑な物語文学が千年もの昔に創作しえたのか。	A 先行する物語『伊勢物語』等の影響 ・「本歌取り」「草花による見立て」(和歌技巧) ・「許されぬ恋」「因果応報」という伝統的文学テーマの踏襲
① 導入(つかみ)の発問	Q 若紫との出会いの場面で源氏の君が独白的に和歌を詠んだとしたら(授業者創作)、空白部(プリント)に入る詞はどのようなものか。	W 各自空白部分()を埋めた上で、最も適当な詞をグループで決定し発表する。 ・本文キーワード「涙ぞ落つる」の活用
② 思考拡散の発問	Q 先行文学の『伊勢物語』とこの歌の共通点は何か。 「既有知識の応用」 Q 本歌取りによる効果はどういうものだろうか。	A 草花による恋心や登場人物への見立て A 即興性・婉曲表現の複雑化・内容の深化・言語文化の継承 「演繹的知識の繋がり」
③ 思考焦点化発問	Q 和歌の「人に知られじ」について言葉を補って現代語訳するとどうなるか。 Q この歌を詠んだとしたら、光源氏的心情はどのようなものが適切だろうか。	W 各自現代語訳を作った後、グループで最も適当なものを発表する。 ・多義語「人」の意味確定・「藤」による見立て A 許されぬ恋情に堪え忍ぶ苦悩
④ 思考深化洞察の発問	Q もし和歌が実際に本文に挿入されていたら、どこに挿入すべきだろうか。 Q この和歌は物語にどのような意味(効果・役割)をもたらすか。	A 本文 p100・9行目「涙ぞ落つる」の後 A 少女の呼び名「若紫」の意味の重さ 伝統的文学テーマ「許されぬ恋」「因果応報」『源氏物語』→ 先行文学の成果を受けて結実した古典の最高峰
⑤ 次回への課題提示	・次回への予告……高校生活を詠む(連歌的創作) 「人に知られじ」を活用した和歌の創作	・現代人の古典文学との関わりの一例

【参観者のメモ欄】